はしがき

本『情報倫理学研究資料集 III』は、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」の一環である「電子社会システム」部門のうちの「情報倫理の構築」プロジェクト（FINE）（主拠点・京都大学文学研究科、副拠点・広島大学文学研究科、千葉大学文学部）の 2000 年度の研究活動報告を兼ねて作成されたものであり、1998 年 3 月刊の第 1 集、1999 年 6 月刊の第 2 集に続く第 3 集となる。

本書の構成は、第 1 部の論文と第 2 部の海外文献紹介が中心になっている。本プロジェクトでは、2000 年度の研究のひとつの柱として医療情報学と情報倫理学の連携というテーマを取り扱ったが、本資料集においてもテュービンゲン大学のヴィージング教授の論文を中心とした小特集を組んだ。海外文献紹介においても、この領域の文献を多く集めた。医療情報学は、現在急激に発展しつつある分野であるが、それに関する倫理学的考察については、未だ端緒についたばかりである。（既刊のものとしては、『資料集 I』における奥野満里子論文、『資料集 II』における板井孝一郎論文、蔵田伸雄論文を参照。）したがって、このテーマでの研究は本年度も継続されるが、さしあたっては本資料集が広範な議論を喚起する一助になればと願っている。

文献紹介は、主として水谷が 2000 年度に京都大学文学研究科・文学部で行った授業における出席者の報告、および FINE 広島研究会での発表に基づいている。情報倫理学に関する文献の加速度的増加は、まさにドッグイヤーとでもいうべき様相を呈しているが、玉石混淆ともいえるそれらを正しくサーベイ、レビューすることは今後も重要な課題となろう。ここで紹介した文献を含めて、京都大学文学研究科に設置されたプロジェクト室には相当量の文献が蓄積されており、情報倫理学文献センターとしての役割をはたし始めている。本年度も新規購入図書のリストを巻末に添付したのでご利用いただきたい。

分量の都合から、各拠点での研究会報告や、2 月に広島で開催された「第二回情報倫理の構築国際ワークショップ」の記録は別冊として刊行することにした。あわせてご覧いただければ幸いである。また、『資料集 I』に続いて『資料集 II』もウェブサイトで公開する準備が行われている。他のプロジェクト関連刊行物に関しても、資料請求番号をつけた一覧を掲載しておいた。残部僅少のものを除いては、各種研究機関、団体などに寄贈可能であるものが多いので、fine@fine.bun.kyoto-u.ac.jp までお問い合わせいただきたい。

昨年は、プロジェクトの半分が終了したということで学術振興会による中間審査が行われた。本号には、その際に作成した簡単な報告書を添付した。さらに、例年どおり、プロジェクトメンバーによる研究活動の記録の抜粋も掲載した。

本資料集の編集作業は、水谷と京都大学文学研究科リサーチアソシエイトの板井孝一郎、および博士後期課程の奥田太郎が主として担当したが、その他にも文学研究科の多くの方にご助力いただいた。いちいちお名前をあげることは控えるが、記して感謝の意としたい。細かいミスを含めて遺漏も多いとは思う。ご叱正をお願いする。

プロジェクト発足以来、ご指導をたまわってきた加藤尚武教授は、本年 3 月末をもって停年で御退官され、新設の鳥取環境大学に学長として着任された。プロジェクトとしては大きな痛手で

あるが、「電子社会システム」推進委員としてのお仕事は継続していただけるようなので、今後も一層のご鞭撻をお願いするとともに、これまでの学恩に深く感謝する次第である。辻井重夫中央大教授を委員長とする「電子社会システム」推進委員の先生方には、厳しくも暖かいご助言を常日頃からいただいている。また、本年 6 月末をもって退職される予定の今西真理さんには、プロジェクト開始から 3 年間にわたって事務補佐員としてたいへんお世話になった。わがままかついいかげんなプロジェクトリーダーをはじめとするメンバーの無理を聞いてくださったことに深く感謝したい。最後になるが、プロジェクト遂行に多大なご支援をいただいている日本学術振興会に、厚く御礼申し上げる。

2001 年 6 月

京都大学文学研究科
水谷雅彦